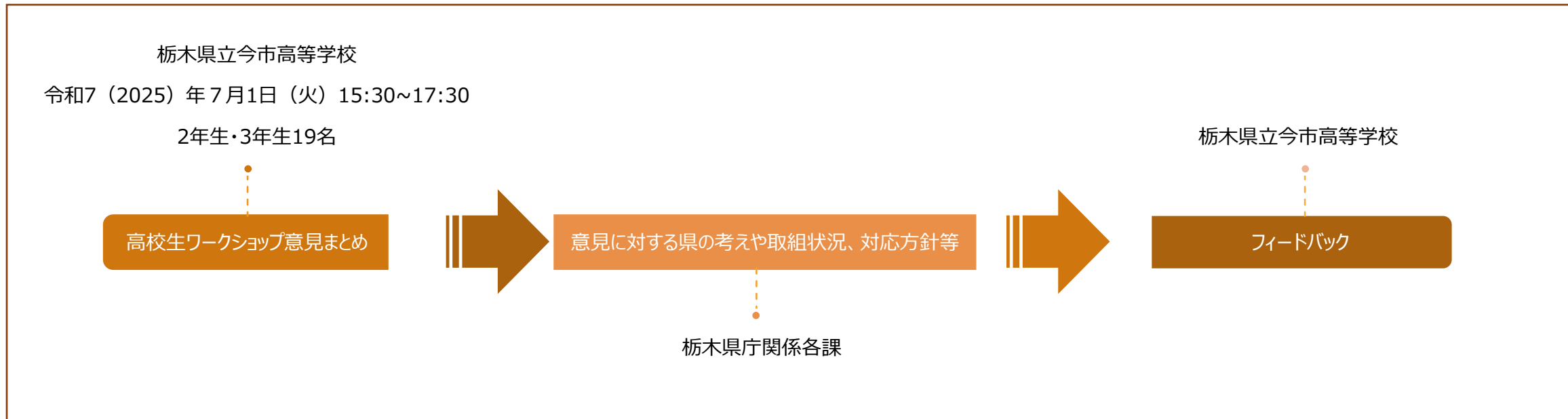


令和7（2025）年度 高校生の意見に対する県の回答

栃木県立今市高等学校



令和7（2025）年度 高校生ワークショップ



フィードバック表記について

- ・実際にあがった声を分野別などにわけてまとめております。
- ・個別にお答えできるものについては個別回答をしていますが、回答内容が共通していたり、全体として回答した方が効果的である場合はまとめた回答としております。

今回のテーマについて

テーマ1:若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

- 1.「若者の県外流出、出生数の減少による少子化」が、栃木県の直面する大きな課題です。
- 2.皆さんが普段暮らしている上都賀地区の現状を踏まえて、より“住みたい町”を実現させるために、若者（皆さん自身）ができること、大人にやって欲しいことの2つの視点から考えてみよう！

テーマ2:若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

1. あなたの住む地域の魅力を考えてみよう！
2. その魅力を県内の他市町の若者に向けて、どのようなPRをすると効果的だろう？

テーマ3:若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

1. 皆さんが県庁で「若者政策担当者」として働いているとします。担当者として、より多くの若者の声を集める仕組みを考えてみよう！
2. 若者の本音を聴き取る最適な手段はなんだろう？



テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

街の雰囲気・安全性

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
街並みや景観を整備してほしい。	居心地が良く、住みたいと思える“まち”にとって『良好な景観』は大切な要素であり、県では、豊かな自然景観や優れた歴史的・文化的景観などの地域の特性を生かした魅力ある景観づくりを推進しています。 日光市においては、「日光市景観計画」に基づいて景観に配慮したまちづくりに取り組んでおり、県においても、市や地元と連携した良好な街並み景観の形成を支援している事例もあります。 今後も、地域で求める“まち”の姿の実現のために、市町のまちづくりや良好な景観形成に向けた取組に対して支援して参ります。
静かな環境がよい。	県や市町では、工場、建設作業及び自動車などから発生する騒音について、騒音規制法に基づき規制を行い、生活環境の保全に努めています。 また、住民から寄せられた騒音に関する苦情については、県や市町が聞き取りや現地調査を行い、必要に応じて相手方に対して指導等を実施しています。
・人通り、街灯が少ない。 ・防犯面を強化してほしい。	県では地域の防犯力強化のため、日常生活や仕事をしている中で負担の少ない形で実施できる「ながら見守り」を推進しており、県の講座を受講した個人を「ながら見守りパートナー」、企業・団体を「ながら見守りサポート企業」とする取組を行っています。
ゴミ拾い活動ができる。	県では、自治会による一斉清掃やボランティアで清掃活動を行う団体等を紹介する「栃木の森里川湖（もりさとかわうみ）清掃活動等ポータルサイト」の運営、ごみ拾いキャンペーンの実施（令和7年度は10月1日～12月27日予定）などを通じて、県民の皆様が取り組まれているゴミ拾い活動の紹介や、活動への参加を呼びかけていますので、皆さんも是非ご参加ください。

テーマ 1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

子育て・教育環境

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
保育料を無償化してほしい。	保育料の無償化については、令和 6 年10月から全額免除の対象を第 2 子以降の3歳未満児に拡充し、全国的にも充実した取組となっています。引き続き、市町と連携して子育て世帯の経済的負担軽減に取り組めます。
進学先を増やしてほしい。	県内には国立大学と私立大学その他、専修学校等も数多く設置されておりますが、学生の進路選択は多種多様であり、県外へ進学する学生も多い状況です。県では、県内大学等と連携し、受験生から選ばれる大学等となるよう、引き続き、魅力向上を図って参ります。
地域資源を活用できる大学を創設してほしい。 (農業系、環境系など)	宇都宮大学農学部が令和 8 (2026)年度に組織改編され、農業系の「フロンティア食品科学科」「生物生産イノベーション科学科」、環境系の「環境システム科学科」「エコロジカル社会経済学科」の4学科が新設予定です。同大学はこれまでも自然豊かな本県の地域特性を生かした学問を実施されており、今後も本県産業の振興に大きく貢献いただけるものと思っています。 県では、農業や森林に関する地域資源を活用する将来の担い手の育成機関として農業大学校や林業大学校を設置しており、就業希望者の育成や既就業者のスキルアップに努めています。皆さんの入学をお待ちしています。
大学の学部を増やしてほしい。	学部新設に当たっては、県内高校生の進学意向や地域産業界のニーズ等を踏まえながら、大学側が検討する必要がありますと考えます。

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

雇用支援の強化

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
最低賃金を上げてほしい。	県では、令和7年度から、5 %以上の賃上げを行うとともに男女間格差是正に取り組む中小企業等に対し「とちぎ賃上げ加速・定着支援金」を支給することで、中小企業等における高水準の賃上げの維持・定着を支援しております。
在宅ワークのアルバイトがあるとよい。	また、とちぎで働く方々に魅力的な雇用の場やテレワークを含めた働きやすい環境を提供するため、働き方改革や仕事と家庭の両立支援、男性の育児休業取得を推進するとともに、働く女性の活躍を支援するための様々な施策を展開しているところです。
就職先を増やしてほしい。	さらに、より多くの方に県内企業へ就職し、活躍していただくために、合同企業説明会などの就活イベント開催や、スマートフォン向けの「とちまる就活アプリ」による本県企業及び就職支援イベント等の情報提供のほか、都内に設置する「とちぎUIターン就職サポートセンター」による就職相談や企業情報提供、さらには県内企業に就職した方を対象とした奨学金返還の支援など手厚いサポートを行っております。

交通の不便さ

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
交通手段（電車・バス・LRT・自転車）を増やしてほしい。	地域を“住みたい町”としていくための一つの要素として、地域の暮らしを支える公共交通等の利便性の向上が必要であることを今回改めて認識することができました。次世代を担う皆さんが、それぞれの地域で安全・安心・快適に移動できるような社会の実現を目指し、今後とも道路・公共交通サービス等の確保・充実に取り組んでいきます。
電車の本数を増やしてほしい。	
バスの本数・対象エリアを拡大してほしい。	
ガソリンスタンドを増やしてほしい。	

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

若者の活動・参加①

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
国際交流ができる施設をつくってほしい。	県では、平成9年に県民主体の国際交流・国際協力、多文化共生の社会づくりの拠点として、宇都宮市内（県庁付近）にとちぎ国際交流センターを開設しました。 当センターでは、県の海外の友好交流先を紹介する常設コーナーや企画展示室、国際交流団体のイベント等を開催する多目的ホール等を有しており、県内の国際交流団体のイベントや県庁で働くアメリカ人、中国人の国際交流員の企画イベントも随時開催しておりますので、ぜひ公益財団法人栃木県国際交流協会（TIA）のホームページでチェックをしてみてください。
情報を知ることができる機会・場がほしい。	県では、地域活動を実施する・興味がある高校生を対象に、活動事例発表や意見交換を実施する「高校生交流会（とちぎ高校生地域活動フェア）」を開催しています。交流会では県内の高校生が実践する地域活性化の取組や地域づくりの活動を知ることができます。県HPには、県内の高校生による地域活動事例集も掲載しておりますので、あわせて参考にしてください。令和7年度も交流会を開催いたします。詳細はHPで公開しますので是非御参加ください。
地域交流のできるイベントを実施してほしい。 （大人がやること）	県内各市町では、地域の特色を活かしながら住民自らが実践する様々な地域づくり活動が行われています。具体例として、地域の特産品を活用したイベントや住民が主体となって進める地域づくりに関する取り組み、コミュニティスペースの運営、農作業・里山整備体験等、地域内外様々な交流が可能なイベント等が実施されておりますので、是非御参加ください。
地域交流のできるイベントを実施する。 （こどもがやること）	県では、高校生発案の音楽フェスやイルミネーションといったイベントなど、高校生が市町と連携して行う地域課題の解決に向けた取組や地域の特色を活かした地域活動に対して支援する事業を行っておりますので、イベントを実施する際は、市町の担当課と協議の上、活用を御検討ください。

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

若者の活動・参加②

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
大人と協力して施設をつくる。	「文化と知」の創造拠点整備構想の策定にあたり、学生の声を聴取するためワークショップを開催し、新しい拠点に必要な設備や機能、やってみたい活動など、将来の利用者である若者から、直接意見を聴く場をもうけ、構想に反映させています。
	アンケートや職場体験等を通じていただいた若者の意見を、展示企画や教育広報、イベント等に反映し、博物館がより開かれた学びと交流の場となるよう努めます。
	県営都市公園の施設整備にあたっては、利用者の視点を大切にしており、特にこどもたちが利用する遊戯施設については、安全性や楽しさに加え、こどもたちの意見を反映することが重要だと考えています。 これまでも、公園利用者にアンケート調査を実施し、その結果を施設整備に活かした事例があり、今後もアンケートなどを通じてこどもたちの声を取り入れながら、より魅力ある公園づくりを進めて参ります。

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

商業施設の充実希望

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
親しみのあるチェーンの飲食店（マクドナルド、スターバックスなど）がほしい。	商業施設を増やして欲しいなどの要望がありました。 これらを運営する企業等に栃木県が魅力ある県ということで、栃木県に進出したいと考えていただけるよう引き続き栃木県の有意性や魅力を発信して参ります。
お店の営業時間を延ばしてほしい。	
生活に関わるお店（スーパーマーケット、ファミリーレストラン、コンビニエンスストアなど）を増やしてほしい。	
「全体」意見に対する県の考えや 取組状況、対応方針など	より多くの企業等に栃木県に進出したいと考えていただけるよう、引き続き、栃木県の魅力を発信していくとともに、大規模小売店舗の出店にあたっては、大規模小売店舗立地法の運用において企業が相談しやすいよう庁内協力体制を整えています。

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

地域資源の活用

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～

「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など

地域資源を活かした体験型の遊び場がほしい。
(日光杉を活用したアスレチック、いちご狩りをし
てカフェで食べるなど)

県では、栃木県県産木材利用促進条例（愛称：とちぎ木づかい条例）を定め、公共・民間建築物の木造・木質化等、木材利用を推進しております。提案のありました施設等へ、日光杉をはじめとした地域材が活用されるよう、関係機関と協力しながら支援等に努めて参ります。

また、デジタルプロモーション「とちぎの農村めぐり」のWEBサイトやSNSを通じて、いちご狩りや観光やな、農泊施設などの情報を発信しています。多くの方々に農村地域での体験を楽しんでもらえるよう、イベントカレンダーやブログの発信内容を充実させるなど、引き続き、効果的な情報発信に努めて参ります。

さらに、自然に恵まれた環境や地域性を生かした公園づくりを進めており、鬼怒川の河川敷にある「鬼怒グリーンパーク」では、「水との出会い」をテーマに、自然の水と触れ合える広場や水上アスレチックを設置しています。

また、「日光だいや川公園」では、ニホンザルやモモンガなど、日光に生息する動物をモチーフにしたアスレチックを設置しており、地域の自然を感じながら楽しめる施設となっています。

テーマ1：若者目線でつくる“住みたい町”ってどんな町？

遊び場・娯楽施設の不足

項目 ～実際のみなさんからの声のまとめ～	「個別」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
買い物ができるお店を増やしてほしい。	商業施設を増やして欲しいなどの要望がありました。 本県産業の活力ある成長を実現するため、今後とも市町や商工団体、金融機関等の支援機関と連携を図りながら、新たな店舗の出店をはじめとした創業の支援に取り組んで参ります。
映えるポイントを増やしてほしい。	
友人と気軽に、ゆっくり話せる場所がほしい。	無料で誰でも利用できる場所のひとつとして、児童館があります。プレイルームや図書室のほか、学習スペースを設けている施設もありますので、近くの児童館を調べてみて、利用してはいかがでしょうか。
遊び場を増やしてほしい。	県では、栃木県総合運動公園をはじめとする9箇所の県営都市公園において、こどもから大人まで幅広い世代が楽しめる遊戯施設や運動施設等の整備に取り組んでいます。
「全体」意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など	県内での創業に向けて、創業に関する知識修得のための創業塾の開催をはじめ、相談窓口の設置や地域の課題解決に向けた創業に対する助成事業に取り組むほか、市町と連携して東京圏から移住して創業する方への支援に取り組んでいます。引き続き、市町等の関係機関と連携しながら、地域経済の好循環を生み出せるよう取組を進めて参ります。

テーマ2：若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

地域の魅力について

カテゴリ（魅力）	内容
暮らしやすさ	（都会と比較して）静かで落ち着く。
	直売所が多く、野菜が安い。
	公園や外で遊ぶ場所が多くてのびのびできる。
文化・歴史	数々の遺産がある。世界遺産（日光東照宮）、産業遺産（足尾銅山）。
	お祭り（鹿沼秋祭り、日光花火大会）。
	動物園（日光さる軍団）。
人の温かさ	近所の人との会話が深い。
	近所の人が下校中に「おかえり」と言ってくれる。見守られている。
	お店の常連さんが多く、コミュニティがつくられている。
食の魅力	ニラ蕎麦、シュウマイ、いちご、かき氷が有名。
	水もきれいだから食もおいしい（川魚、そば、お寿司）
自然の豊かさ	空気がおいしい。
	川がきれい。
	星がきれい。
	鳥の鳴き声が聞こえる
	野生動物（鹿、キジ、たぬきなど）を観察できる。
挑戦できる環境	外国人観光客が多く、外国語を勉強できる。
	周りに何も無いから、何でもチャレンジできる

テーマ2：若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

効果的なPRについて①

PR方法	PR媒体	配信の工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
HP	自治体HP	HPのデザインをかわいく見やすくする。	県公式HPは「誰にでもわかりやすい」「すべての人に魅力の伝わる」サイトを目指し、高齢者や障害者等への配慮（ウェブアクセシビリティ）やコンテンツの分類整理などによる情報の見つけやすさの向上、画像や動画を使用した魅力発信に取り組んでいます。 また、サイト全体のイメージ統一やスマホでも見やすいページデザインについても考慮しています。 今後もユーザーのご意見を参考としながら、これらの取り組みを進め、多くの方が使いやすく見やすいサイトとなるよう努めます。

テーマ2：若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

効果的なPRについて②

PR方法	PR媒体	配信の工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
SNS	Instagram	・市役所と協力する。 ・ハッシュタグをつけて、地域の魅力を表す写真を募集する。 ・キャッチフレーズとともに景色などをPRする。	Instagram「とちぎきぶん」では年間を通して#投稿キャンペーンを実施しており、栃木ファンの方にたくさん応募（投稿）いただいています。今後は相乗効果を狙った市町のアカウンドとのコラボキャンペーンなどを検討しています。
		何気ない日常を短尺動画でPRする。	栃木県マスコットキャラクター「とちまるくん」のX、Facebook、Instagramを活用し、「永遠の7才の男の子とちまるくん」の様子を栃木県内の魅力も併せて紹介できるよう発信しています。
	Instagram、TikTok	有名人を起用する。	県内外で活躍している方で、栃木県に深い愛着を持ち、とちぎの魅力・実力の対外的情報発信を積極的に行ってくれる方に「とちぎ未来大使」に就任してもらい、県や市町など自治体が企画するイベントやPR動画に出演していただき、本県の魅力をPRしています。
	(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		Instagram「とちぎきぶん」では、とちぎファンが「#とちぎきぶん」を付けて投稿した、エモい写真や旬なフルーツや地場野菜を使ったカフェ、ネット検索では上位にランクインしていない観光地や地元のカフェなどの穴場スポット、季節ごとのおすすめスポットを紹介しています。

テーマ2：若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

効果的なPRについて③

PR方法	PR媒体	配信の工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
SNS	全般	方言（なまり）を使う。	Xで過去に複数回方言を使ってポストしています。 反響が大きいため、今後も方言についてはポストしていく予定です。
		大学生と協力して若者目線でPR。	県庁インターンシップに参加した大学生にX・YouTubeで投稿を行ってもらっています。 過去にはXで高校生が作ったクイズを投稿するなど、大学生以下の若者発案の投稿も行っています。
		・ 幻想的なシーンを演出する。 ・ 若者に刺さるエモい演出する。	今後もBGMやエフェクトで、シーンに合った演出をします。
		県公式SNSをおしゃれにデザインする。	X、LINE、YouTubeで使用している画像は、委託業者に頼み、おしゃれにデザインしたものを使用しています。
		・ 世代を超えて協力してPRする。 ・ インフルエンサーを起用する。 ・ 若者と年配者が一緒にPRする。 ・ 地域特有のものをPRする。	若年層から高年層まで幅広い方にとちぎ未来大使に就任してもらい、特に発信力のある方には県から県産品等を送り、大使のSNSで発信していただいています。
		・ イベントごとをPRする。 ・ おすすめスポットをPRする。	Xでは「#栃木県イベントナビ」というハッシュタグを使用し、県内で開催される大きなイベントをPRする予定です。LINEでは毎週水曜日にイベント情報を発信しています。
	(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		SNSの各ユーザーに合わせ、効果的な情報発信ができるようにしています。

テーマ2：若者が考える地元に“戻りたくなる町”ってどんな町？

効果的なPRについて④

PR方法	PR媒体	配信の工夫	（個別意見に対して）意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
ショー	各地遠征	ご当地ヒーローを起用する。	県マスコットキャラクターチーム「とちキャラーズ」の中には、日光仮面をはじめご当地ヒーローも所属しており、県民の日記念イベント等で県内各地の魅力を発信しています。
その他	—	疲れていたり、ストレスが溜まっている人に対して癒やしを売りにアプローチする。	「永遠の7才の男の子とちまるくん」は県内外のイベントに登場して多くの方に愛されています。今後も更に登場の機会を増やして行く予定です。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

より多くの若者の声を集める仕組みについて①

意見聴取方法	具体例	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
SNSツールを使用	Instagramの質問箱	県民相談では、県民プラザ及び各県民相談室に受付箱を用意して、自由に相談を受けられる体制を作っています。
	YouTubeのライブ配信	ライブ配信を実施する上では、多くの方が視聴できる時間帯の設定と職員の確保が必要になってくることが課題です。また、専門的な質問についてはそれぞれの担当に確認をしてからでないと回答ができないものも一定数生じてくるため、皆さんに満足してもらえるコンテンツを提供することが難しい可能性もあります。 皆さんが視聴できる時間帯に職員を確保し、「すぐにお答えできる質問」と「確認をしてから後程お答えする質問」に分けて実施ができれば有意義なコンテンツになると考えているため参考とさせていただきます。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		- 県では、県庁の「県民プラザ室」や各出先機関の「県民相談室」等において、若者の皆様を含め県民の方々からの様々なご意見やご提案、ご相談をお受けしているほか、インターネットの専用受付フォームにおいても同様にご意見等を受け付けています。 - ご提案いただいたSNSツールの活用については、令和6年度からLINEを活用したアンケートを本格的に開始するなど、今後も、若者の皆様にとって身近で利用しやすい手段を通じてご意見を伺えるよう、工夫していきます。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

より多くの若者の声を集める仕組みについて②

意見聴取方法	具体例	（個別意見に対して）意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
アンケート	ネットアンケート	・「とちぎネットアンケート」では、協力者として登録いただいた方を対象に、年10回程度インターネットを活用したアンケートを実施しているほか、年4回程度LINEを活用したアンケートも行っています。 ・「とちぎネットアンケート」の協力者には、抽選で謝礼を贈呈しています（回答回数に応じて抽選に参加できる回数が異なります）。 ・「こどもモニター」という小学生、中学生、高校生～22歳、保護者計1,000名を対象としたネットアンケートを計4回実施しています。県の具体的な取組に関する質問を皆さんの視点からお答えいただき今後の取組の参考とさせていただいております。
	ゲーム形式のアンケート	県でネットアンケートは実施しているものの「内容が難しい」、「手間がかかる」などの理由で中学生・高校生の回答率は低い傾向にあります。 このような課題を解決するためにも、皆さんに親しみやすいゲーム形式のアンケートで楽しく実施してもらうことは大きな意義があると感じています。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

より多くの若者の声を集める仕組みについて③

意見聴取方法	具体例	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
対面	ワークショップ	施設広聴事業の一つとして「県庁Walk」を実施し、県庁舎等の見学や旬の県政をテーマとした講座を通して県庁を身近に感じ、県政についての理解を深めていただき、県政に対する意見・要望を提出していただいています。
	気軽な対話形式	広く県民の皆さんの参加を募り、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」の実現に向けて、知事と直接意見交換ができる「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム（知事との意見交換）」を実施しています。県内に在住、通勤、在学されている方ならどなたでもお申し込みいただけます。
	顔を出さずに直接話せる場	・「県民相談」、「知事にアクセス」とも、対面や電話では広報課の職員が対応しています。 ・「知事にアクセス」にお寄せいただいたご提案などは、知事や担当部局にお伝えし県政運営の参考とさせていただきます。 ・ご意見やご提案、ご相談は匿名でもお受けすることができます（回答を希望される場合は、連絡先をお知らせいただく必要があります）。 ・「知事にアクセス」では、これまでいただいたご提案や回答の内容については県HPに掲載しています。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		ワークショップは直接皆さんから意見を聴取することができ、皆さん自身も主体的に参加をしていただくことで当事者意識が芽生え、有意義なものであると考えております。一方で、実施の方法については、気軽さや匿名性など皆さんの気持ちに寄り添った方法を検討していくことが重要であると思っています。
自由記述・記録	自由に書けるノート・掲示板 (公共施設に設置)	県民相談では、県民プラザ及び各県民相談室に受付箱を用意して、自由に相談を受けられる体制を作っています。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

若者の本音を聴き取る最適な手段について①

カテゴリー	参加しやすさ・意見の出しやすさの工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
安心感	匿名で実施	・「県民相談」や「知事にアクセス」は匿名でもご意見やご提案、ご相談をお受けすることができます。 ・受付方法は、対面のほか電話やFAX、手紙、インターネットの専用受付フォームがあります。 ・後日等の回答を希望される場合は、連絡先をお知らせいただく必要があります。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		「知事にアクセス」にこれまでいただいたご提案や回答の内容については県HPに掲載していますので、ぜひご覧ください。
手軽さ	気軽にできるもの	県民相談・移動広聴では口頭聞き取りや箇条書き等でも受付ています。
	スマートフォンで手短に終わるもの	・スマートフォンで手軽に回答することができるアンケートとして、とちぎネットアンケート及びLINEアンケートを実施しています。 ・県政世論調査においても、令和5年度からインターネット回答を導入しています。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		意見聴取は、皆さんに時間と労力を割いて協力していただいているため、できるかぎり負担にならないように実施していきたいと考えております。 皆さんから多くの意見を聞きたいと思っている反面、それが負担感となってしまっているため最適に調整していきたいと思っております。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

若者の本音を聴き取る最適な手段について②

カテゴリー	参加しやすさ・意見の出しやすさの工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
参加促進	インセンティブ(特典)がある	・移動広聴では協力いただいた方にエコバック等を配布しています。 ・とちぎネットアンケートでは、年度末(3月)に3ポイント(1回答するごとに1ポイント)を1口として、抽選で計100名に1,000円分のクオカード、10名に3,000円分のクオカードを贈呈しています。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		引き続き、移動広聴や、とちぎネットアンケート等の調査広聴への参加を促進するために、効果的なインセンティブ等についても工夫を継続していきます。
対象の選定	・全世代を対象にすると意見が深まる ・やる気のある人たちを集める	・「県民相談」や「知事にアクセス」では、年齢に関係なく幅広くご意見やご提案、ご相談をお受けしています。 ・「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム(知事との意見交換)」では、県内に在住、通勤、在学されている方ならどなたでもお申し込みいただけます。
	幼稚園生や小学生は素直な意見が聴ける	・移動広聴ではこども専用のアンケート用紙も準備しています。 ・小学校4・5・6年生を対象に、「ジュニア知事さん」作文を実施(「ふるさと”とちぎ”の未来予想図～夢の実現に向けて、私が知事になったら、やりたいこと～」というテーマで作文を募集)しています。 この事業は、小学校高学年の児童から率直な意見を聴くとともに、栃木の未来について考えるきっかけをつくり、将来にわたって栃木に対する興味や関心、親しみをもち続けてもらえるようお願い、実施しているものです。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		意見を聴取する対象者が変わることによって、挙げられる意見も大きく異なるため対象を広げて行くことは重要であると思います。 そのためにも、幅広い対象が参加いただける環境づくり、皆さんが理解しやすいコンテンツづくりを進めていきたいと思っています。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

若者の本音を聴き取る最適な手段について③

カテゴリー	参加しやすさ・意見の出しやすさの工夫	(個別意見に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
楽しさ・参加しやすさ	・ 少人数グループでの話し合い ・ フランクに話し合える場 ・ 寄り添ってくれる状況	・ 令和7年度の「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム」では、知事が一般企業に訪問し、少人数の子育て世代の方々と車座で意見交換を行いました。 ・ 大人数であると自身の意見を言いづらいこともあるため、こどもワークショップにおいても原則4人程度の班構成としています。 班が多くなってしまうと目が行き届かないという課題も生じてくるため、可能な限り小人数での実施を行っていきたいと考えています。
	・ 友人と一緒に参加 ・ ゲーム形式で楽しめるもの	・ 「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム」では、県内に在住、通勤、在学されている方ならどなたでもお申し込みいただくことができますので、ご友人とのご参加も可能です。 ・ 普段あまり話すことがない人や初めての人の中ではハードルが高いと感じる人が多くいると思います。皆さんがリラックスして意見出しができるように、友人との参加や初めての方ともアイスブレイクを交えて進行していきたいと考えています。
(分類全体に対して) 意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など		皆さんが緊張した状態では、ありのままの意見を聴くことは難しいと感じます。皆さんがリラックスして臨めるように、どのようにすれば話しやすい環境になるかを日々考えながらワークショップなどの意見聴取を実施していきたいと考えています。

テーマ3：若者の声をどう集める？政策担当者になってみよう！

若者の本音を聴き取る最適な手段について④

カテゴリー	参加しやすさ・意見の出しやすさの工夫	（個別意見に対して）意見に対する県の考えや取組状況、対応方針など
その他	はじめからインセンティブを示すとやる気が起きない	興味があって意見聴取に参加していただいた方にとっては、「そんなつもりで参加したわけではない」とやる気を削いでしまうこともあります。 そのように思う方が1人でも少なくなるよう、皆さんが積極的に参加したくなるコンテンツや環境づくりに努めていきたいと考えています。
	・集めた意見に対して早く回答・反応することが重要。 ・意見を出しても意味がないと感じてしまう。	皆さんの意見がどのように検討され、社会に影響を与えたか知ることで、社会参画への意識が高まり、次の意見表明へと繋がると考えています。 現状、皆さんに正確な情報を伝えるため、確認に一定の時間をいただいておりますが、この期間を少しでも短縮し、皆さんに迅速にフィードバックができるよう県庁全体で取り組んでいきたいと考えています。